
陸奥黄金長者伝説

山之口 博道

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

陸奥黄金長者伝説

【Nコード】

N6049J

【作者名】

山之口 博道

【あらすじ】

陸奥に伝わる長者伝説です。
悲しいお話ですね。

その昔、この地方にはそれはそれはいそうな長者様がおったそう
な。

豪壮な屋敷を構えて、田畑は見渡す限り、春には早苗たちが、苗を
勢ぞろいして植える姿はそりゃあ、壮観だったそう。

そして秋には、黄金の稲穂が見渡す限りに風に揺れ、刈り取った俵
は長者様の広い庭を埋め尽くしたそう。

そして米俵は、なんと、まああ、15もある米蔵にすべて収められ
たというそう。

まるでお殿様のような暮らしぶり、
春の屋敷には春の花が

夏の屋敷には涼を呼ぶくさぐさが、

秋の庭にはもみじが黄金のハーモニーを奏で

冬の屋敷は、雪見の書院が作られていたそう。

何一つ不自由のない豪華な暮らし、

だが

そんな長者様にもただひとつだ気、思いのままにならないことがあ
ったそう。

それはほかでもない子供が生まれなかったのじゃよ。

この大財産を受け継ぐべき子供がおらんかったのじゃよ。

夫婦はある日山の、観音堂に願を掛けたそうじゃ。

百か日の願掛けじゃ。

「どうぞわたしらに子供がさずかりますように、もしこの願い聞き届けられたなら

黄金の人形100体作って観音池に奉納しますじゃ。」

観音堂の前には広い広い池が広がっておったのじゃよ。

そして調度百か日めの夜の夢枕に、観音様がおたちになって、
こういったそうじゃ。

『そちたちの願いは聞き届けられたぞよ。玉のような女の子が授かるじゃろっ』と。

果たせるかな、長者さまには、それはそれはめんこい娘子が授かった。

長者様は早速黄金で1尺ほどの人型を100体作らせ観音池に奉納したそうな。

長者様はそれこそ花よ、蝶よと育てて這えば立て立てば歩めといつくしんだそうな。

そして、娘が15になったとき、なんと都の帝から奥方として輿入れせいの知らせが舞い込んだのじゃ。

長者様が、嘆くことはそれはもう見ていらなかったそうな。

それはそうじゃ。ここまでいつくしんだ娘を、むぎむぎ都にとられてしまっただからのう。

しかし、時は至り、都からそれは壮麗な迎えの使節がやってきたと言う。

そして花嫁御料は都へ向かいもう2度とこの地には娘子は戻らんかったという。

それからというもの、あれほど栄えた長者様も

日ごとに、寂れていきついには、長者様がなくなると、

やがては其のお屋敷も取りこぼされて

今では一面の麦畑となってしまったのじゃよ。

あの麦畑がその昔、豪壮な長者さまのお屋敷があつたところなんて誰も信じますまいて。

長者三代とはよく言ったもので、どんなに栄えた長者でも三代目には、ほれこの通り、

お屋敷も消えうせて、麦畑になる定めよ。

おやもう私の話には飽きたかね？

ところで、あの黄金のひとがた100体はどうなったかつて？

娘が都に行くときにすべて引き上げて結納金として持たせたとも言
うし。

あるいは、池ではなくて実はさる秘密の洞窟に隠してあるとも言
うし、

あるいは黄金ではなくて金箔の小さな観音様一体だったとも言
うし。

真相は謎じゃよ。

何しろ今から1000年も昔のお話だからのう。

誰も真相は分らないのじゃよ。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n6049j/>

陸奥黄金長者伝説

2010年10月12日03時07分発行